

金陵の郷

清酒金陵の起源は1616年に遡る。当時、何軒か酒屋があったが、そのうちの 하나가鶴羽屋で、それを引き継いだ羽屋が酒の銘柄を鶴田屋に変えた。この酒屋の酒蔵が江戸末期の1789年に8代目西野嘉右衛門によって買収され、銘酒金陵が誕生した。

琴平本店には3つの酒蔵があった。そのうち大通りに面していたものが第二庫（第二酒蔵）と呼ばれた。約2916㎡あり、1988年に金陵の郷として改築された。この由緒ある酒蔵には、元の醸造会社の白壁が残っており、金陵の郷を訪れた客は当初の酒造りについて学習したり、昔の醸造道具や酒造りの工程を見たり、視聴覚情報を活用することができる。

皆さんが日本の酒文化を知り、ゆったりとした雰囲気の中銘酒と出会うことができれば幸いです。樹齢900年の楠の御神木の下で、お酒を愉しみつつゆったりとくつろいでください。